

津市総合計画後期基本計画策定のための住民意識調査【概要版】

I 調査概要

1. 調査概要

調査対象：津市に居住する15歳以上の市民

配布数：7,000 / 有効回収数：2,954 / 有効回収率：42.2%

調査方法：郵送配布・郵送回収 / 調査時期：平成24年2月

※アンケート調査表は、本冊P116～P131

2. 回答者の属性

(1) 性別・年齢

性別構成は、「女性」(46.9%)、「男性」(34.4%)、「無回答」(18.7%)となっています。
年齢構成は、「60代」(22.8%)が最も多く、「70代以上」も含む60歳以上が40%を占めます。

(2) 居住歴

「今の津市出身だが市以外で居住の経験がある」(31.1%)が最も多く、「生れてからずっと住んでいる」も含めて、津市がふるさとの人が55.2%となっています。

(3) 世帯構成

「親子」が45.6%と2世代の家族が最も多くなっています。「親・子・孫(3世代以上)」も含めると、複数の世代の家族が約6割を占め、「単身」世帯は6.5%にとどまっています。

II 調査結果

1. まちへの愛着度と定住意向

(1) 市への愛着度

「どちらかというとな愛着を感じている」が47.0%と最も多く、「とても愛着を感じている」も含めると、73.6%の人が市に愛着を感じており、市への愛着度は高いといえます。

(2) 定住意向

「これからはずっと住み続けたい」が48.7%と最も多く、「当面は住み続けたい」を合わせると約8割が住み続ける意向を持っており、非常に定住志向が高いといえます。

2. まちの現状と今後の取り組みについて

(1) 美しい環境と共生するまちづくり

①重要度（「重要である」）

「重要である」の割合が高いのは「上水道・簡易水道の整備」(65.9%)、「生活排水対策の推進」(60.0%)、「生活道路の整備」(59.7%)と生活の基本となる水の供給・処理対策と生活道路の重要度が高くなっています。

②満足度（「満足している」＋「やや満足している」）

満足と回答した割合をみると、「上水道・簡易水道の整備」が57.5%と最も多く、「生活排水対策の推進」が38.4%となっています。これらの項目は重要度も高いが満足度も比較的高くなっています。また、「資源の循環的利用の推進」(38.9%)、「廃棄物等の適正な処理」(31.6%)の廃棄物の処理や循環利用についても、比較的満足度が高くなっています。

③今後の最重点項目

今後最も力を入れる項目としては、「生活道路の整備」が36.8%と最も多くなっています。

す。次いで「廃棄物等の適正な処理」(24.0%)、「生活排水対策の推進」(24.0%)、「多様な自然環境の保全」(23.4%)、「上水道・簡易水道」(20.4%)と続いています。

(2) 安全で安心して暮らせるまちづくり

①重要度（「重要である」）

「重要である」の割合が高いのは「災害に強いまちの推進」(72.8%)、「消防体制の充実」(62.5%)、「地域医療体制の充実」(62.3%)と災害と消防、地域医療の重要度が高くなっています。

②満足度（「満足している」＋「やや満足している」）

満足という回答した割合をみると、「消防体制の充実」が35.0%と最も多く、次いで「健康づくりの推進」が32.9%となっています。「消防体制の充実」は重要度と満足度がともに高くなっており、「健康づくりの推進」は重要度が低く満足度は高くなっています。

また「交通安全対策の充実」(24.5%)、「国民健康保険」(22.9%)、「地域医療体制の充実」(22.4%)という交通安全や医療などについても、比較的満足度が高くなっています。

③今後の最重点項目

今後最も力を入れる項目としては、「災害に強いまちの推進」が46.7%と圧倒的に多くなっています。次いで「高齢者福祉の充実」(29.6%)、「地域医療体制の充実」(27.3%)が多くなっており、そのほかの項目は20%未満です。

(3) 豊かな文化と心を育むまちづくり

①重要度（「重要である」）

「重要である」の割合が高いのは「学校教育」(52.7%)、「幼児教育」(42.3%)であり、幼児と児童生徒の教育に関心が高くなっていると考えられます。

②満足度（「満足している」＋「やや満足している」）

満足という回答した割合をみると、重要度が高い「生涯学習」(26.2%)や「学校教育」(24.0%)と「幼児教育」(22.1%)が満足度も高くなっています。

③今後の最重点項目

今後最も力を入れる項目としては、「学校教育」が43.2%と圧倒的に多く、次いで「幼児教育」(24.4%)となっていますが、そのほかの項目は15%未満にとどまっています。

(4) 活力あるまちづくり

①重要度（「重要である」）

「重要である」の割合が高いのは「勤労者福祉と雇用の推進」(42.2%)と「道路ネットワークの整備」(34.1%)、「農業の振興」(32.4%)となっています。

②満足度（「満足している」＋「やや満足している」）

満足という回答した割合をみると、「道路ネットワークの整備」(20.8%)や「港湾の整備」(17.0%)と「公共交通の充実」(15.3%)の満足度が高くなっています。

③今後の最重点項目

今後最も力を入れる項目としては、「勤労者福祉と雇用の推進」(26.6%)と「道路ネットワークの整備」(24.7%)、「農業の振興」(22.2%)、「公共交通の充実」(20.4%)と、重要度が高い項目の回答が多くなっています。

（５）参加と協働のまちづくり

①重要度（「重要である」）

「重要である」の割合が高いのは「ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」（24.0%）と「情報公開の推進」（23.8%）が比較的高くなっています。

②満足度（「満足している」＋「やや満足している」）

満足という回答した割合をみると、重要度が高い「広報広聴」（22.2%）の満足度が高くなっています。このほかでは大半の項目が、満足度は15%を切っています。

③今後の最重点項目

今後最も力を入れる項目としては、「ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」（25.5%）と「市民活動の促進」（25.3%）が多くなっており、次いで、「協働のまちづくりの推進」（19.7%）となっています。

（６）住みやすさの総合評価

総合的に見た津市の住みやすさは「住みやすい」が23.5%、「どちらかといえば住みやすい」が56.1%で、あわせて約8割の人が住みやすいと評価しています。

3. 行政サービスについて

（１）市からの情報を十分に受け取っているか

市からの情報を受け取っているかについては、「まあまあ受け取っている」が61.3%と最も多く、「十分に受け取っている」をあわせると、約7割の人が市からの情報を受け取っていると感じています。

（２）市からの情報の入手方法

市からの情報の入手方法としては、「広報津」が79.5%と最も多く、次いで「自治会の回覧」が61.0%となっており、市民にとって広報や回覧板が主な情報の入手媒体となっています。次いで「知人や家族」（13.6%）、「市ホームページ」（10.9%）が1割台で続いています。

（３）要望や意見の伝達手段

利用したことがある伝達手段としては、「総合支所の窓口」が9.1%、「本庁の窓口」5.1%の順となっているが、「利用したことがない」が4分の3を超えています。

（４）要望等が市に伝わっていると感じるか

要望等が市に伝わっていると感じるかについては、「あまり感じていない」が48.8%、「全く感じていない」の12.8%をあわせた6割以上の人が伝わっていないと感じています。

（５）市役所窓口の利用

市役所窓口の利用については、「本庁舎」が53.3%と最も多く、次いで「総合支所」（45.7%）、「出張所」（36.8%）となっています。

（６）主に利用している窓口

主に利用している窓口としては、「総合支所」（38.4%）と「本庁舎」（36.8%）がほぼ拮抗しています。

（７）主な窓口を利用する理由

主な窓口を利用する理由としては、「家から近い」が68.3%と圧倒的に高く、身近にあ

ることが最も大きな理由となっています。次いで「必要な用事を全て済ませることが出来る」（35.9%）、「待ち時間が少ない」（16.0%）と、利便性や効率性も理由となっています。

（８）総合支所を利用した目的

総合支所を利用した目的としては、「戸籍、住民票、印鑑証明、国保、年金等」が94.2%と最も多く、各種申請手続き、届出等を目的とする利用が大半となっています。次いで「福祉関係（障がい・子ども・高齢関係等）」（30.6%）、「税金について」（24.0%）となっており、各種の相談や地域振興などについて低い割合です。

（９）行政サービスのあり方について

行政サービスのあり方については、「市民の自主的な活動促進により負担を減らす」が37.9%と最も多く、「受益者負担の考え方を強くしてほしい」の19.8%をあわせた57.7%の人が行政の負担軽減を容認していますが、一方、「負担増でも現状のサービスを維持してほしい」が25.6%あり、「負担増でも質の高いサービスを提供してほしい」（4.6%）も含めて、サービスの維持や向上のため負担増はやむを得ないという人は約3割みられます。

4. 地域活動への参加状況

（１）地域活動への参加状況

地域活動への参加状況については、「自治会や町内会での活動」への参加が最も多く、「企画・運営者として中心的に参加している」、「スタッフやサポーターとして参加している」、「一般的な立場で参加している」を合わせた割合（参加率）は、約6割と圧倒的に多くなっています。

これ以外の項目では、「個人の趣味や余暇などを活かしたグループでの活動」（26.7%）、「子ども会、スポーツ少年団、PTAなどでの活動」（21.4%）、「婦人会や老人会、青年団などの活動」（18.7%）、「ボランティア、消防団などでの活動」（15.0%）の順となっています。

（２）日常生活や地域活動等への参加状況

日常生活や地域活動等への参加状況について、「積極的に取り組んでいる」と「取り組んでいる」を合わせた割合が高いのは、「ゴミの減量化・リサイクルに取り組んでいる」で、7割以上となっており、環境への意識が高いことがうかがえます。

5割を超える項目は、「地元生産物をできるだけ買うようにしている」（64.1%）、「地元の商店でできるだけ買い物をしている」（56.1%）、「日頃から健康増進に取り組んでいる」（54.5%）、「近所やまちで高齢者や障がい者など困っている人を見たら助けている」（52.5%）など、地産地消や地域活性化、健康増進や地域福祉への取り組みが盛んです。

「あまり取り組んでいない」と「全く取り組んでいない」を合わせた割合が高いのは、「地域の外国人とふれあったり交流に参加したことがある」が84.3%であり、多文化にふれる機会をあまり持っていません。